

令和2年度事業報告

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

【I】基本方針

世界的に新型コロナウイルス感染症が拡大し、人々の社会活動やスポーツ活動が制限された状態が続いております。日本においてもこの状態はしばらく続くものと考えられますが、そのような中、人々の健康志向はますます増大し、スポーツへの関心はますます高まってきております。スポーツの各種大会は徐々に再開されており、東京2021オリンピック・パラリンピックも予定通り開催される見通しです。

日本経済は大きな打撃を受けたため、研究機関への助成やスポーツ団体への助成を見直す動きもありましたが、スポーツ科学の振興と健全なスポーツ活動の発展に寄与することを目的とする当財団では、この期待に応えるべく改めて事業持続の重要性を認識し、昨年と同様の規模の事業活動推進を図ってまいりました。

健康の増進と体力の向上及びスポーツ科学に関連する調査・研究の助成事業では、公募により財団選定テーマによる研究助成並びに自由課題による研究助成を引き続き実施いたしました。スポーツ関連科学及びスポーツの普及・振興・発展を目的とする団体の助成事業では、6つの研究機関・団体に対して助成を実施いたしました。

また令和元年度の事業成果を広く関係者に公表するため、機関誌「デサントスポーツ科学」Vol.41を発行いたしました。

【II】事業報告

(1)健康の増進と体力の向上及びスポーツ科学に関連する調査・研究に対する助成。

1)課題学術研究(2件 各100万円、総額200万円)

本年度テーマ「暑熱環境下における快適性を実現する手法に関する研究」、「衣服内環境を快適にする湿度をコントロールする手法に関する研究」、「運動後のリカバリーに有効なクールダウンを実現する手法に関する研究」、「運動時におけるウェアに関するシミュレーションシステムの構築」について公募し、学術委員及び事務局が推薦した者を理事会の諮問機関である学術委員会において審議、決定し下記2件に対し助成を行いました。

① 暑熱環境下における快適性を実現する手法に関する研究(暑熱環境下におけるパラアスリートの使用器材の温度変化と身体に及ぼす影響に関する研究)

和歌山県立医科大学みらい医療推進センター 指宿 立

- ② PIV 計測と CFD 解析による衣服内気候の詳細把握に基づく被服時の人体温熱環境評価

豊橋技術科学大学 島崎 康弘

2)自由課題研究 (21 件 総額 1,200 万円)

全国にわたる 100 の大学または、その他の学校、研究機関より応募された 149 件の課題の中から学術委員会の審査の結果、下記 21 件に対し助成を行いました。

《最優秀入選 (100 万円)》

＜体力医学＞系

- ① 高齢者の骨格筋健康指標と運動機能との関係 -2 年間にわたる縦断的検討-

名古屋大学 秋間 広

＜障がい者スポーツ＞系

- ② 競技用車いすの操作性に対する身体的負荷を考慮した評価に関する研究

工学院大学 田中 克昌

＜被服・工学＞系

- ③ あがりを防止する左手把握素材のスポーツウェアへの実装

早稲田大学 正木 宏明

《優秀入選 (各 50 万円)》

ジャンル＜運動整理＞

- ④ アスリートブレイン -高強度持久性運動トレーニングによる脳神経基盤および循環器機能への影響

産業技術総合研究所 樽味 孝

- ⑤ 体性感覚野における上肢と下肢の神経科学的統合性の検証 -四肢の協調運動能力への神経生理学のアシストを目指して-

東京大学 加藤 辰弥

- ⑥ 暑熱下における休息間の身体冷却が女性の運動パフォーマンスに及ぼす影響

広島大学 長谷川 博

- ⑦ 心血管疾患リスクに対する運動効果を予測できる血中バイオマーカーの探索

立命館大学 藤江 隼平

- ⑧ 暑熱環境下における皮膚脊髄路の興奮性の検討

奈良女子大学 中田 大貴

- ⑨ 運動の快眠促進効果の解明：運動と睡眠の質をつなぐ新たな解析指標

筑波大学 朴 寅成

ジャンル<バイオメカニクス>

- ⑩ 筋音図と筋電図の同時計測による関節運動に寄与する筋群の質的評価

川崎医療福祉大学 福原 真一

- ⑪ クラシックバレエのトゥシューズ着用時の筋骨格系力学負荷と足型との関係

東京都立大学 長谷 和徳

ジャンル<医療・看護>

- ⑫ ジュニアアスリートにおいて足部形態が運動器機能およびスポーツ動作に与える影響 -新たなスポーツ障害スクリーニングの確立に向けて-

広島大学病院 生田 祥也

ジャンル<トレーニング>

- ⑬ レジスタンストレーニングの継続に伴う筋肥大応答の減弱メカニズムの解明

立命館大学 竹垣 淳也

- ⑭ 筋伸張により生じる力を活用した低負荷等尺性トレーニングが筋肥大および筋力増強に及ぼす影響

京都大学 中尾 彩佳

- ⑮ 高負荷スクワット運動が腰椎椎間板に及ぼす急性の影響 -腰椎前弯角度、体幹筋の筋量および下肢柔軟性との関連性-

上武大学 柳澤 修

- ⑯ 血流制限を併用したレジスタンストレーニング：低酸素環境との比較および相乗効果の検討

北翔大学 沖田 孝一

- ⑰ 短長期間の高強度インターバルトレーニングによる呼吸循環制御系の運動適応 -発現機構の解明 -縦断的研究によるトレーニング効果の検証

大阪産業大学 宮本 忠吉

ジャンル<食物・栄養>

- ⑱ 運動とアミノ酸の併用によるマイオカインを介した褐色脂肪細胞化誘導と肥満予防を超える恩恵への発展

中部大学 津田 孝範

ジャンル<用具・被服>

- ⑲ 運動後のリカバリーにおけるアイシングの有効な適用方法の検討

愛知みずほ大学 山根 基

- ⑳ 被服環境が暑熱環境下植物工場内の作業負担に及ぼす影響

三重県工業研究所 松岡 敏生

ジャンル<障がい者スポーツ>

② 片側大腿切断者におけるランニング時の着地衝撃に関連する障害リスク評価

東京理科大学 安間 亮

○学術委員（順不同、敬称略）

佐藤 祐造	井上 真理	押田 芳治
緒方 徹	梶原 莞爾	上條 正義
川原 貴	島崎 恒藏	下光 輝一
下村 吉治	田島 文博	田畑 泉
田村 照子	永富 良一	西村 太良
檜垣 靖樹	平田 耕造	廣田 孝子
福永 哲夫	藤本 繁夫	吉岡 利忠

○助成金交付 令和2年7月

○研究成果報告書提出 令和3年10月

(2)スポーツ関連科学の発展を目的とする研究機関・団体の助成（150万円）

- 1)諸外国とのスポーツ科学における人的・学問的交流を積極的に推進するため、一般社団法人日本体力医学会への助成を行いました。
- 2)スポーツ関連科学の発展を推進するため、一般社団法人日本臨床スポーツ医学会、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会への助成を行いました。

(3)スポーツの振興・発展を目的とする団体の助成（650万円）

- 1)国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与するため、公益財団法人日本スポーツ協会に助成を行いました。
- 2)オリンピック事業の推進並びにトップレベルの選手育成・強化に寄与するため、公益財団法人日本オリンピック委員会に助成を行いました。
- 3)障がい者スポーツの普及・振興及び障がい者スポーツの国民理解の促進に寄与するため、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会に助成を行いました。

(4)機関誌の発行

令和元年度の事業内容を公表するため第41回研究成果報告書を中心とする「デザートスポーツ科学」Vol.41を令和2年6月に発行し広く研究機関関係者に公表いたしました。

(5)機関誌「デザートスポーツ科学」データベース化

当財団の機関誌「デザートスポーツ科学」は、体育学、健康科学、人間工学、被服科学など幅広い研究を掲載しており、信州大学繊維学部が推進している「産学連携情報提供支援データベース」に登録しております。これにより、機関紙の内容が世界に向けて公開されることとなり、併せて、学術論文の質的向上が図れることが期待できます。

以上

令和2年度決算報告書

貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金	8,475,895	9,908,694	△ 1,432,799
流動資産合計	8,475,895	9,908,694	△ 1,432,799
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	3,480,462,326	2,568,983,610	911,478,716
定期預金	100,000,000	0	100,000,000
基本財産合計	3,580,462,326	2,568,983,610	1,011,478,716
(2) 特定資産			
助成金準備資金	18,000,000	40,000,000	△ 22,000,000
特定資産合計	18,000,000	40,000,000	△ 22,000,000
固定資産合計	3,598,462,326	2,608,983,610	989,478,716
資産合計	3,606,938,221	2,618,892,304	988,045,917
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	12,252	12,252	0
流動負債合計	12,252	12,252	0
負債合計	12,252	12,252	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本金	3,580,462,326	2,568,983,610	1,011,478,716
指定正味財産合計	3,580,462,326	2,568,983,610	1,011,478,716
(うち基本財産への充当額)	(3,580,462,326)	(2,568,983,610)	(1,011,478,716)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	26,463,643	49,896,442	△ 23,432,799
(うち特定資産への充当額)	(18,000,000)	(40,000,000)	(△22,000,000)
正味財産合計	3,606,925,969	2,618,880,052	988,045,917
負債及び正味財産合計	3,606,938,221	2,618,892,304	988,045,917

正味財産増減計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	10,410,150	10,410,000	150
基本財産受取配当金	0	42,971,318	△ 42,971,318
基本財産運用益計	10,410,150	53,381,318	△ 42,971,168
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	4,214	1,000	3,214
特定資産運用益計	4,214	1,000	3,214
③受取寄付金			
受取寄付金	0	30,000,000	△ 30,000,000
受取寄付金計	0	30,000,000	△ 30,000,000
④雑収益			
受取利息	384	163	221
雑収益	2,280	22,392	△ 20,112
雑収益計	2,664	22,555	△ 19,891
経常収益計	10,417,028	83,404,873	△ 72,987,845
(2) 経常費用			
①事業費			
会議費	620,594	2,612,781	△ 1,992,187
旅費交通費	0	2,786,993	△ 2,786,993
通信運搬費	11,499	85,956	△ 74,457
研究助成費	14,475,000	18,280,875	△ 3,805,875
支払手数料	594,000	589,364	4,636
支払寄附金	8,000,000	15,000,000	△ 7,000,000
資料収集調査費	725,000	775,000	△ 50,000
機関誌発行費	7,352,102	6,807,168	544,934
40周年記念事業費	0	17,704,950	△ 17,704,950
雑費	300,000	300,000	0
事業費計	32,078,195	64,943,087	△ 32,864,892
②管理費			
会議費	3,240	159,043	△ 155,803
旅費交通費	53,500	419,206	△ 365,706
通信運搬費	71,462	107,410	△ 35,948
支払手数料	810,290	790,828	19,462
賃借料	99,360	116,640	△ 17,280
顧問料	264,000	261,600	2,400
租税公課	56,400		56,400
雑費	413,380	281,485	131,895
管理費計	1,771,632	2,136,212	△ 364,580
経常費用計	33,849,827	67,079,299	△ 33,229,472
当期経常増減額	△ 23,432,799	16,325,574	△ 39,758,373
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 23,432,799	16,325,574	△ 39,758,373
一般正味財産期首残高	49,896,442	33,570,868	16,325,574
一般正味財産期末残高	26,463,643	49,896,442	△ 23,432,799
II 指定正味財産増減の部			
①基本財産評価損益等	1,011,478,716	△ 2,693,971,090	3,705,449,806
②一般正味財産への振替額		△ 30,000,000	30,000,000
当期指定正味財産増減額	1,011,478,716	△ 2,723,971,090	3,735,449,806
指定正味財産期首残高	2,568,983,610	5,292,954,700	△ 2,723,971,090
指定正味財産期末残高	3,580,462,326	2,568,983,610	1,011,478,716
III 正味財産期末残高	3,606,925,969	2,618,880,052	988,045,917

正味財産増減計算書内訳表
令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	9,130,025	1,280,125	10,410,150
基本財産受取配当金	0	0	0
基本財産運用益計	9,130,025	1,280,125	10,410,150
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	4,214	0	4,214
特定資産運用益計	4,214	0	4,214
③ 受取寄付金			
受取寄付金	0	0	0
受取寄付金計	0	0	0
④ 雑収益			
受取利息	0	384	384
雑収益	0	2,280	2,280
雑収益計	0	2,664	2,664
経常収益計	9,134,239	1,282,789	10,417,028
(2) 経常費用			
① 事業費			
会議費	620,594		620,594
旅費交通費		0	0
通信運搬費	11,499	0	11,499
研究助成費	14,475,000	0	14,475,000
支払手数料	594,000	0	594,000
支払寄附金	8,000,000	0	8,000,000
資料収集調査費	725,000	0	725,000
機関誌発行費	7,352,102	0	7,352,102
40周年記念事業費	0	0	0
雑費	300,000	0	300,000
事業費計	32,078,195	0	32,078,195
② 管理費			
支払報酬	0	0	0
会議費	0	3,240	3,240
旅費交通費	0	53,500	53,500
通信運搬費	0	71,462	71,462
支払手数料	0	810,290	810,290
賃借料	0	99,360	99,360
顧問料	0	264,000	264,000
租税公課	0	56,400	56,400
雑費	0	413,380	413,380
管理費計	0	1,771,632	1,771,632
経常費用計	32,078,195	1,771,632	33,849,827
当期経常増減額	△ 22,943,956	△ 488,843	△ 23,432,799
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期一般正味財産増減額			△ 23,432,799
一般正味財産期首残高			49,896,442
一般正味財産期末残高			26,463,643
II 指定正味財産増減の部			
① 基本財産評価損益等			1,011,478,716
② 一般正味財産への振替額			0
当期指定正味財産増減額			1,011,478,716
指定正味財産期首残高			2,568,983,610
指定正味財産期末残高			3,580,462,326
III 正味財産期末残高			3,606,925,969

注) 共通費用は公益目的事業会計と法人会計に配賦している。

財 産 目 録
令和3年3月31日現在

(単位：円)

科 目	使用目的等	金額
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金	小口現金	23,291
普通預金 三井住友銀行船場支店	運転資金として使用している。	8,445,712
普通預金 北國銀行大阪支店	運転資金として使用している。	6,892
現金預金合計		8,475,895
流動資産合計		8,475,895
2. 固定資産		
基本財産		
投資有価証券 シルフリミテッド（ユーロ債）	公益目的保有財産であり、運用益を主に公益目的事業の財源として使用している。	100,000,000
ノムラ・ヨーロッパ・ファイナンス（ユーロ債）	同上	100,000,000
みずほ証券SCBクレジットリンク債	同上	100,000,000
3回ソフトバンクG利払繰延期限前償還劣後債	同上	70,000,000
株式会社デサント株式1,652,743株（時価1,882円）	同上	3,110,462,326
定期預金 三井住友銀行船場支店	同上	100,000,000
基本財産合計		3,580,462,326
特定資産		
助成金準備資金	令和2年度および令和3年度の助成金交付のために積立られている資産であり、特定費用準備資金として管理	18,000,000
定期預金 北國銀行大阪支店		
特定資産合計		18,000,000
固定資産合計		3,598,462,326
資産合計		3,606,938,221
II 負債の部		
1. 流動負債		
預り金	源泉税預り金	12,252
流動負債合計		12,252
負債合計		12,252
正味財産		3,606,925,969

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券については、取得原価によっている。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	2,568,983,610	1,011,478,716	100,000,000	3,480,462,326
定期預金	0	100,000,000	0	100,000,000
小計	2,568,983,610	1,111,478,716	100,000,000	3,580,462,326
特定資産				
助成金準備資金	40,000,000	0	22,000,000	18,000,000
小計	40,000,000	0	22,000,000	18,000,000
合計	2,608,983,610	1,111,478,716	122,000,000	3,598,462,326

(注) 1. 投資有価証券の増加額はデザート株式の期末時価評価による評価差額であります。

2. 投資有価証券の一部が償還されたため、定期預金へ振り替えております。

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
投資有価証券	3,480,462,326	3,480,462,326		
定期預金	100,000,000	100,000,000	0	0
小計	3,580,462,326	3,580,462,326	0	0
特定資産				
助成金準備資金	18,000,000	0	18,000,000	0
小計	18,000,000	0	18,000,000	0
合計	3,598,462,326	3,580,462,326	18,000,000	0

4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、評価額及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	帳簿価額	評価額	評価損益
投資有価証券			
シルフリミテッド（ユーロ円債）	100,000,000	101,580,000	1,580,000
ノムラ・ヨーロッパ・ファイナンス（ユーロ債）	100,000,000	101,860,000	1,860,000
みずほ証券SCBクレジットリンク債	100,000,000	100,000,000	0
3回ソフトバンクG利払繰延期限前償還劣後債	70,000,000	70,098,000	98,000
合計	370,000,000	373,538,000	3,538,000

監査報告書

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団

理事長 石本和之殿

令和3年 5月24日

公益財団法人 石本記念

デサントスポーツ科学振興財団

監事 篠原 祥哲

監事 高木 茂太市

監事 檜垣 誠次



私たちは、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの事業年度における理事の業務執行及び会計の監査を行い、その方法及び結果について、次のとおり報告する。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事会及びその他の会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産状況の調査を行った。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討した。

さらに、会計帳簿並びに関係書類閲覧など必要と思われる調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録の妥当性を検討した。

2 監査意見

(1) 事業報告書等の監査結果

- 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。
- 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められなかった。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。